

1 行 \rightarrow

論 題

20 ポイント・ゴシック・センタリング

コンピュータ利用による簿記教育

- 専門学校における簿記教育の課題と展開 -

2 行 \rightarrow

14 ポイント・明朝

12 ポイント・明朝・右寄せ

石原淳行*¹ 白川雄三*²

1 行 \rightarrow

〔概要〕本報告は、表計算ソフトのひとつであるエクセルを利用した簿記教育システムを紹介し、その教育効果について分析することを目的とする。また、このようなコンピュータを利用した簿記教育が抱える問題点を明らかにし、今後の専門学校における簿記教育の方向づけについて考える。

〔キーワード〕情報教育、ツール学習、学習評価、授業分析

11 ポイント・ゴシック

はじめに - 問題提起 -

近年、ビジネス系専門学校への進学を希望する学生の目的意識は、非常に多様化している。これまでの簿記を中心とした経理の知識の習得のみならず、コンピュータに関する知識や経営に関する知識など、さまざまな方面の知識の習得を学習目的とした新入生が増加している。こういった状況の中で、簿記の学習について、これまでのような検定試験の合格だけを目的とした、一斉授業の形式での講義と問題演習だけでは、十分に授業内容を学生が消化できず、授業についてこれないような状況に陥る可能性がある。このような現実を十分にふまえて、われわれ専門学校の簿記教育担当者は、常に学生の個性や能力にあった新しい指導方法を考えていく必要が生じている。

今回、本学会において発表させていただく発表は、上記のような問題提起のもと、コンピュータを利用して、「楽しく簿記を学習することができないか。」という考えから、試行錯誤をはじめて、たどり着いた教育方法のひとつである。

コンピュータ簿記の講義内容

コンピュータ簿記の講義は、簿記検定試験 3 級合格程度の簿記の知識と基礎的なコンピュータの知識を持っている学生を対象

として実施される。具体的な講義内容は、エクセルを利用したの仕訳帳・試算表・精算表、そして損益計算書や貸借対照表といった財務諸表の作成を行うものである。

教育効果

1. コンピュータ社会へ対応
コンピュータに長時間接するため、キーボードに慣れることができる。
2. 簿記に対する動機付け
レクチャ形式の授業では、簿記について興味を持つことができなかった学生には、異なった側面から簿記に接することができ、簿記学習の動機付けに役立つ。
3. 会計情報の流れをつかむ
出題パターン別による受験簿記の学習とは異なり、会計情報の流れを帳簿組織と関連させて学習することができる。

結び - 課題と展望 -

今後、専門学校における簿記教育は、これまでのような検定試験の合格だけを目的とした受験簿記の学習だけでなく、学生たちが簿記に興味を持って受講できるような講義内容へと変化していく必要があるだろう。そういった意味で、コンピュータ簿記は、十分にその役割を果たしうる教育方法のひとつである。

*1 atsuyuki ishihara : 関西経理専門学校 e-mail ishihara@ast.ac.jp

*2 yuuzou shirakawa : 大阪学院大学 e-mail sirakawa@osaka-gu.ac.jp